

調査日2020年

月

医院
認識番号

現在の年齢

オ 男・女

現在使用中の
GLP1RA薬剤名
○をしてくださいビクトーザ・トルリシティ・リキスミア・バイエッタ
・ビデュリオン・ゾルトファイ・途中で変更あり
(複数使用例)

糖尿病歴

10年未満 · 10年以上 · 不明

投与開始時

201□ 年 □ 月

		開始時	現時点でのデータ
身体所見	身長(cm)		
	体重(kg)		
	診察室血圧 (mmHg)	/	/
	早朝家庭血圧 (mmHg)	/	/
血液検査	HbA1c (%)		
	Cr (mg/dL)		
尿検査	アルブミン尿 (mg/gCr)		
	蛋白尿定性	- · ± · + · 2+ · 3+	- · ± · + · 2+ · 3+

記入時点の該当する併用薬を○で囲んでください

血糖降下薬	無	·	DPP4阻害薬 · SU薬 · メトホルミン インスリン · SGLT2阻害薬 · ピオグリタゾン · 他
降圧薬	無	·	RAS系阻害薬 · Ca拮抗薬 · アルドステロンプロッカー サイアザイド系利尿薬 · ループ利尿薬 · βプロッcker · 他
スタチン	無	·	有

神奈川県内科医学会会員各位

2型糖尿病症例におけるGLP1受容体アナログ薬投与による腎への影響についての後ろ向き調査研究へのご協力の依頼

平素よりお世話になっております。実地医家でのデータからエビデンスを作る目的で我々は2016年より30あまりの県内医療施設の参加のもと、SGLT2阻害薬による腎への影響についての後ろ向き調査研究を実施しました。微量～顕性アルブミン尿の改善、そしてそれに血圧管理が深く関係することを見出し、これまでに国内外での発表、さらには英語論文5報を報告することができました。GLP1受容体アナログ薬についてもCVOTにて心血管イベント抑制効果が報告され、ADA/EASDのコンセンサスレポートにてSGLT2阻害薬に並んで、合併症抑制効果のための積極的使用が推奨されています。今回我々はGLP1受容体アナログ薬における腎への影響についての後ろ向き調査研究を企画しました。これまで培った症例集積、さらには統計解析を用い、質の高い実地医家での研究成果を出すことを考えております。ぜひとも多くの先生方のご参加をお願い申し上げます。

令和2年8月1日

神奈川県内科医学会高血圧腎疾患対策委員長（研究責任者） 佐藤和義

神奈川県内科医学会高血圧腎疾患対策委員（実務責任者） 小林一雄

- | | | |
|------|---------------|----|
| 同封書類 | (1) 研究参加あいさつ文 | 1枚 |
| | (2) 研究参加希望届 | 1枚 |
| | (3) 院内掲示用書類 | 1枚 |
| | (4) 症例登録用紙 | 1枚 |

研究概要

方法：後ろ向き調査（投与開始時と現在のデータ収集）

対象：令和2年7月1日から10月31日の期間に、外来継続通院中の、GLP1受容体アナログ薬を1年以上継続投与中の2型糖尿病例

GLP1受容体アナログ薬とは以下のいずれか（途中変更例や合剤も含む）

- ・リラグルチド（ビクトーザ®）
- ・エキセナチド（ビデュリオン®またはバイエッタ®）
- ・リキセナチド（リキスミア®）
- ・デュラグルチド（トルリシティ®）

調査内容：別紙調査票を参照してください

注意点1；研究に参加する医師は臨床研究倫理講習*が終了している必要があります（修了書の提示が求められることがあります） *大学における倫理講習、WebにおいてはICR臨床研究入門、eAPRIN、神奈川県医師会主催の臨床研究講習会参加など

注意点2；研究参加希望医師は次のページに必要事項を記入の上、小林までFAX、郵送、メール、いずれかでお願いします。研究実施詳細資料をメールにて送らせていただきます。（研究プロトコールは神奈川県内科医学会HPで確認できます）

注意点3；調査期間中に外来受診した該当症例、原則全例の調査票の記入をお願いします（必要な枚数をコピーしてください）。症例がまとまった時点でも、途中の段階でも調査票を郵送していただいて結構ですが、郵送代金は先生方にご負担ください。

神奈川県内科医学会HPサイト内での研究案内の動画もアップも予定しています。ご覧いただければ幸いです

研究参加届

2型糖尿病症例におけるGLP1受容体アナログ薬投与による腎への影響についての後ろ向き調査研究

に参加を希望します

①お名前（本人または代表者）(_____)

英語表記 (_____)

②病院・診療所名 (_____)

③問い合わせに使用可能なメールアドレス（必須）

(_____)

④主な専門を教えてください。

糖尿病内科、腎臓内科、循環器内科、他の内科、それ以外

以下に返送ください。研究実施詳細資料をこちらからお送りさせていただきます

調査票返送先

〒252-0131 神奈川県相模原市緑区西橋本 5-1-1 ラフロール 3F

内科クリニックこばやし 小林一雄 宛

電話 042-770-7371

FAX 042-770-7372

メール：k-taishi@xc4.so-net.ne.jp

院内掲示用資料

当院は医学の発展のため 臨床研究に参加しています

当院は、神奈川県内科医学会・高血圧腎疾患対策委員会による「2型糖尿病症例におけるGLP1受容体アナログ薬投与による腎への影響についての後ろ向き調査研究」を行います。

研究の背景

糖尿病の血糖降下薬の一つであるGLP1受容体アナログ薬は、海外の研究にて、アルブミン尿低下作用を含めた腎臓保護作用があることが明らかになりました。神奈川県内科医学会高血圧・腎疾患対策委員会では、これまでにかかりつけ患者においてSGLT2阻害薬に腎臓保護作用があることを報告してきましたが、GLP1受容体アナログ薬が同じように腎臓に好影響を与えるかは臨床の現場では十分に検討されていません。

我々は、2型糖尿病症例におけるGLP1受容体アナログ薬投与による腎への影響の調査し、今後の医学発展に寄与したいと考えます。

目的

2型糖尿病症例におけるGLP1受容体アナログ薬の腎への影響についての後ろ向き調査

組織

本調査は神奈川県内科医学会会員もしくはそれに所属する医療機関の医師が行います。

調査方法

現時点でGLP1受容体アナログ薬を使用している症例において、それを開始した時点と、調査時点の検査結果につき調査を行います。

なお、日本で使用可能なGLP1受容体アナログ薬はいくつかあり、その商品名は以下となります。

ビクトーザ[®]、バイエッタ[®]、リキシミア[®]、トルリシティ[®]、ビヂュリオン[®]、ゾルトファイ[®]

本調査の結果より期待されること

2型糖尿病症例におけるGLP1受容体アナログ薬の腎への効果を、実地医家によって明らかにすることにより、GLP1受容体アナログ薬がより適正に使用されることへ寄与します。

倫理的配慮

この研究は、日本医師会倫理審査委員会で承認された研究です。調査用紙には参加していただいた患者さんが誰であるかを明らかにする情報は含まれません。もしこの調査にご自分のデータが使われることを拒否される場合にはお申し出下さい。その場合、あなたの診療情報は使用しませんし、拒否されても診療上不利になることはありません。本調査研究の実施計画書の詳細は神奈川県内科医学会のホームページにて掲載されています。閲覧、入手ご希望の方は神奈川県内科医学会のホームページにて可能ですので、ご確認ください。

最後に上記内容および本研究につき、ご質問ご相談のある患者さんは、医師が対応しますのでお申し付けください。